

福祉情報を発信します

あすなろ
の家

今回は Kira☆ウォークラリー

…ふわふわクラゲが出迎え



コロナ禍に何かできることはないか?から始まったウォークラリー。今回は『Kira☆ふわウォークラリー』と題して、令和6年6月2日日曜日、お天気が心配される中「やっちゃおう!!」と実施。

会場では、たくさんの手作りふわふわクラゲが皆さんを出迎えます。今回



のモチーフは『クラゲ』。きっと「なぜクラゲ?」からのスタートだったのではないかと予想します(笑)。

ウォークラリーの中身は、いつも通りのポイントでのゲームにプラスして、今回のおもしろ企画。地域のお宅を巻き込んでの借り物競争的な指令も登場。バナナやベルマーク、英語の教科書等色々借りて、もう1つの指令、地域(海)に放出されたタコ、イカ、クラゲとの写真を撮ってゴールへ。

「楽しかったあ」って赤い顔して帰ってきてくれた皆さんの笑顔。

☆達成感で満ち溢れていました!

…『マルシェ』もウォークラリーの楽しみ

さあ次は『マルシェ』。マルシェもウォークラリーの楽しみの1つ。たくさんの方に来場いただき大いに盛り上がりました。

ウォークラリー参加者さんだけの特典もうれしさ倍増。このウォークラリーも回を重ね、少しずつ成長してきている気がします。地域の皆さんが「あすなろのウォークラリーに行きたい!」って足を運んでもらえるよう、次回(11月)も頑張ろう!って皆さんの笑顔を見ながら強く感じました。

元気に参加してくれた皆さん、マルシェに協力頂いた皆さん、地域のボランティアの皆さん、職員のご家族、職員さん…皆さんの力で大成功で終わることができました。ありがとうございました。

…なんでクラゲ?…

それから「なんでクラゲ?」ですが、ちゃんと意味はあるのです(笑)。

クラゲは10億年前からほぼ同じ形にいるそうです。そして見方によって色が変わる。変わらない強さ、変わっていく柔らかさ。あすなろもそんなふうになれたら…と。頑張ります!!





「第2活動室」完成！

ヨガやリズム・音楽会など、本物を体感する活動もスタート

パン屋さんの隣の空き地に25坪の小さな活動室が完成しました。

東日本大震災を教訓に、BCPはもちろん、初動の避難訓練にも力を注いできましたが、事業の継続に関わる書類を整えて安心、防災倉庫に避難食や水を揃えて安心していることに不安を感じていました。

その不安を拭うために、日常は活動出来る場所として慣れ親しみ、非日常（災害時）にも安心して過ごせる場所の建設に踏み切りました。

耐震強度1.5倍、蓄電池を備えた太陽光パネルの設置、また防災用品をすべて室内に設置し、日頃から使用したり、見える形で保管することにしました。今年の元旦には、能登半島で大きな地震が起り、長い復興の道半ば、災害関連死数が増えていることが気掛かりです。自助ではどうにもならないこともあります。ともの家として、出来る限りの自助を目指していきたいと思っています。



オカリナよっちゃん演奏会



演奏会…「となりのトトロ」は仲間のリクエスト

6月半ばに完成し、ヨガやリズム、音楽会など、本物を体感し、五感をより豊かにする取り組みがスタートしています。木の香りと、高い天井、部屋の中には「かまくら」のような小ぶりのスペースもあります。最近、仲間たちから名前を付けたいと発信があり、現在公募中です。

たとえ障害があっても、

「あたりまえに働き、自らえらべる」くらしの実現をめざして

国会に請願署名(きょうされん)を提出

昨年12月から約半年、集まった署名の束を持って、全国の仲間が東京に集結し、直接地元選出の国会議員に届けました。

静岡県選出議員20名の内、賛同してくれる議員は毎年6名ほどですが、障害のある当事者の声を直接届ける大変重要な活動です。

2013年に施行した障害者総合支援法は生きるための根幹である「所得保障」や「家族依存」は置き去りのまま、民間企業の参入を認めた結果、質より量が先行し、全国でトラブルが発生しています。

日々の実践だけではどうにもならない壁（国の施策）を、運動という形で、全国の仲間と協力して正しい方向へ動かしていくこと。一筆一筆にその力があると信じています。



地元議員に署名を手渡す

4年ぶりに「父母の会総会」を再開

4月26日父母の会総会が4年振りに開催されました。85世帯中55世帯の出席がありました。

コロナ以降、全園児の保護者の皆さんと顔を合わせる父母の総会が再開できたことは、改めて保護者の意識の高まりと必要性を感じました。

総会では、保育園より杉井理事長の話、園内体制や風の子の保育について直接、保護者の方に伝えることができました。

父母の会新会長 中村さんより、「父母の会では、三役・各委員会を中心に、力を合わせて、みんなで作り、みんなで育てる保育園、を実践していきたい。4年振りの父母の会総会を開催することができたように、父母の会活動も新たなやり方を園と共に考え、先生方、子どもたち、保護者の交流を深めていけるような活動を取り組みたいと思います」という活動方針についてのお話がありました。



親子遠足(いんご組・みかん組)

5月23日に焼津市にあるターントクルこども館(焼津おもちゃ美術館)に行ってきました。初めての場所でしたが、親子で十分楽しむことができました。木のぬくもりを感じながらあそびを通して、子ども・保護者同士の親睦も深めることができました。

保護者の感想・・・

○初めての親子遠足楽しかったです。何日も前から親子で楽しみにしていました。兄弟がいて、なかなか2人の時間がないので、子どもにとっても親にとっても貴重な時間となりました。

○バスで出掛けるといことで、子どももとても楽しみにしていました。おもちゃが沢山あって、頭を使ったり、身体を使ったり、伸び伸び子どもたちが遊ぶ姿が見れました。

○子どもは楽しくてしょうがない！親もとても楽しめました。



○保育園にいつも関わっていないので、やっと親同士の話ができて良かったです。

○じっくり一緒に遊び、他のお友達やママと話をし、息子の普段を知れたし、情報交換もできて良かったです。

○おにぎり食べたり、風の子クッキーももらったり、一緒に楽しめるイベントがあるのも良かったです。

○友達と仲良く遊んでいる姿を見ると共に、もうすぐ(今年で)保育園生活も終わりなんだな～と少し悲しくなりました。本当にいい友達と出会えて良かったです。

大企業には有利に、国民には負担の増大を

理事長 杉井則夫

『骨太の方針』（経済財政運営と改革の基本方針 2024）を閣議決定

6月21日に「経済財政運営と改革の基本方針2024（骨太の方針）」が閣議決定されました。赤字国債依存から脱却し、財政健全化を目指そうとするものです（いつも骨太の方針で言っていることです）。

つまり政策運営に必要な収入を税収、税外収入により行い、赤字国債に依存しない財政運営を行おうとするものです。当然赤字国債に代わる収入源と、財政支出の削減の両面で改革が必要になります。



地方では、中小の訪問介護事業所が数多く閉鎖に

財政支出の削減で、社会保障分野での給付と負担の関係がどうなるかについては法人だより35号で触れていますので詳しくは書きませんが、訪問介護についてだけ触れます。訪問介護事業者は、都市部で大手事業者の運営事業所が増加する一方、地方では中小事業者の運営事業所が数多く閉鎖に追い込まれています。施設介護から在宅支援へと言いながら、在宅介護の担い手である訪問介護事業が成り立たない事態はおかしいと言わざるを得ません。

骨太の方針は「経済と財政運営の・・・」とうたっていますが、内容は医療、介護にとどまらず、教育・物流・宇宙政策・貿易・食糧安保・新しい働き方・暮らし方など多岐にわたり、それぞれについて詳しく見ていくと相当な時間を要します。

しかし、一貫して流れているのは、大企業には有利に、国民には負担の増大です。

労働賃金の上昇については必要性を言うだけで、あとは企業任せ。先端技術分野では、企業招致のために数兆円規模で補助金や税優遇などの手厚い支援を行う一方、金融政策では、新しい段階に入ったと言いながら、円安には全く歯止めがかかっていません。（経団連の多くの企業は輸出と海外子会社からの配当金が円安で大儲けしています）。

ジェンダーギャップの解消をいいながら、選択的夫婦別姓すら実現できないありさまです。

『骨太』と相反する「新たな経済対策」・・・一貫性のない政策運営

「骨太の方針」を発表して数時間後には、骨太とは相反する内容の「新たな経済対策」として、補助金バラマキの政策を決定する一貫性のない政策運営です。

言っていることとやっていることが違うことは他にもあります。例えば「貿易DX」ではデジタル化を推進し、紙ベースでの貿易手続きを効率化すると言いながら、これまで電子データで良かった証明書などは海外機関のオリジナルの原本を必要とするなど、これまで以上に手間、費用のかかるようなことが行われています。

今後 社会保障の負担の増大、給付の削減が具体化か？

今後、国家安全保障戦略で防衛力の抜本的強化の促進が行われ、一方で全世代型社会保障制度を謳って負担と給付の見直しとして、負担の増大、給付の削減が具体化してゆくことになるだろうと考えます。

